

# 令和6年度 福島県働き方改革モデルづくり事業

株式会社 会津ラボ



# 会社概要

社名	株式会社 会津ラボ
所在地	福島県会津若松市インター西53番地
設立	2007年 1月 4日
従業員数	男性 17人 女性 6人
業務内容	システム開発
経営理念	to Advance Knowledge for Humanity 人類の為になる高度な知識と技術を世に送り出します。



# 取り組みのきっかけと目標

1. ソリューション事業部はプロジェクトごとにアサインされるため互いの進捗が把握できず、業務の属人化と進捗管理に課題があった。
2. 仕事の配分に偏りが発生しているため、一部のメンバーが長時間労働になっていた。
3. 在宅勤務が続くとコミュニケーション不足となるため、協働体制が取りにくく新人が育ちにくい環境であった。

以上のことから、2つの目標に向けて取り組みをスタート

見える化を進めるとともに  
誰でもできる仕組みを作ることで  
属人化やコミュニケーション不足を解消する

罪悪感なく休める環境を整え  
スタッフ全員が十分な睡眠時間を  
確保できるようにする

# 取り組み内容

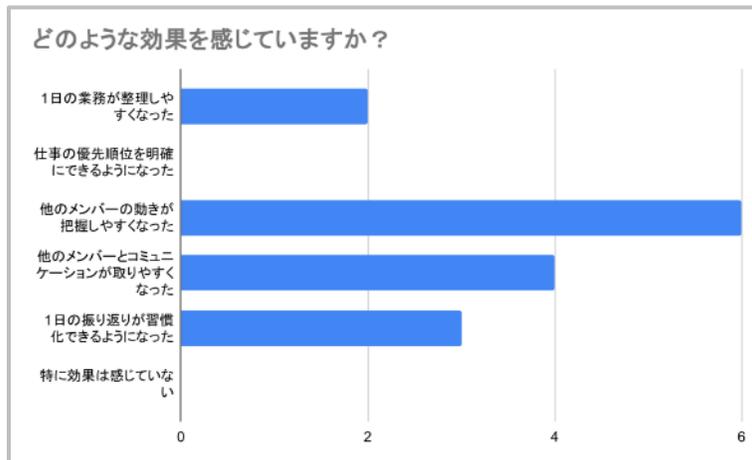
1. ありたい姿の実現を阻害する要因について話し合いを重ね、優先順位の高い「業務の見える化」に着手。管理部は出社が多いがIT作業のソリューション事業部はテレワークが多いことから互いの状況把握が難しいため、それぞれの状況をネット上で共有することを検討。現在使用しているGoogleドライブやSlack等を活用して1日の予定を始業と終業のタイミングで入力し、チームメンバーの状況を見える化できるように試験的に運用を開始。
2. システム開発という特殊性からコミュニケーション不足になるため、テレワークメインの担当業務でも週1回出社を推奨しているが形骸化していた。テレワークでも可能なコミュニケーション方法としてオンライン活用を検討。ZOOMミーティングでどのようなことが可能かを担当コンサルタントと共に検証。



# 取り組み成果

1. Slackを活用して朝メール・夜メールを開始したことで互いの状況が把握できるようになった。自身の業務管理が効率的になっただけでなく、コメント欄を活用することでメンバー間のコミュニケーションも活発になり、開始当初は入力に負担を感じていたメンバーも楽しみながら運用することが出来るようになってきている。
2. ZOOMのブレイクアウトセッションを体験することで、コミュニケーション活性化の様々な可能性を実感。テレワークを減らして出勤日を増やすという流れにかじを切るより、プロジェクトごとのブレイクアウトルームでミーティングが活性化することを感じた。また、ホワイトボード機能を使用してアイデア出しをすることで、オンラインでも全員が意見出しをすることが可能であることが分かった。

朝メール・夜メールの導入について



# 取り組みから感じたこと

## メンバーの感想

それぞれ現状について意見を出し合うことで、改めて業務の偏在が発生していることを認識できました。

今回のように一人一人がしっかりと意見を出す機会はなかなかないため新鮮でした。

今回の取り組みを通してメンバーのタスクの見える化が可能になり、同時にコミュニケーションも取れるようになるなど変化を実感できました。

## 事務局から

本取り組みを通じて、社内の現状を見つめ直し、今後の改善に向けた課題を整理する貴重な機会となりました。

特に、他社の事例を交えた具体的なアドバイスをいただき、課題の抽出や対策を検討する道筋が明確になりました。単なる問題認識にとどまらず、業務改善に向けた一歩を踏み出す契機となったと感じています。研修を通じて参加者の意識が高まり、未参加者も巻き込んで取り組みを拡大できたことは大きな成果です。事務局としても、研修の学びを広げ、継続的なフォローアップを行いながら、働きやすい環境づくりを支援してまいります。

## 今後に向けて

今回の取り組みで明らかになった課題を踏まえ、属人化防止、進捗の可視化、負担の平準化が重要であると感じました。具体的には、業務の標準化や引き継ぎ強化、タスク管理の見直しにより、業務効率を向上させます。また、在宅勤務時の円滑なコミュニケーションの確保も重要な課題であると認識できました。研修で得た知見を活かし、柔軟で持続可能な働き方を実現するため、引き続き課題解決に取り組みます。